

2016 あがまち 風景賞

この賞は、桐生市の個性あるまち風景を形成している建造物や空間等のうち、特に良質な風景を創出しているものを表彰し、まちなみの保存と活用、ならびに市民の都市風景に対する意識の高揚に寄与することを目指すもの。ファッションタウン桐生推進協議会まちづくり委員会が主管。16回目となる今年は2件の複合物件を含む3案件が選出された。



本町四丁目能楽館通り 共愛会館

所在地／桐生市本町四丁目 85-27
管理者／本町四丁目自治会

本町通りからかつての映画館・能楽館へと続く路地は「能楽館通り」と呼ばれ、暮らしと生業、そして歴史の漂う道である。昭和59年に建設された共愛会館は、桐生らしい町家風の意匠で、自治に富む地元住民の拠点となっている。この地域には豪商が残した祇園祭の屋台、鈴などのかけがえない祭礼芸術や進取と自治の精神に満ちた町衆文化とコミュニティ、地域の再生や創生に必要なものが息づいている。



野間家住宅 どんさん亭新宿郷屋敷店

所在地／桐生市新宿二丁目 5-7

日本を代表する出版社「講談社」を設立し、後に「雑誌王」と呼ばれる野間清治の生家。野間清治生誕140年が経過した現在は、ステーキレストラン「どんさん亭」にリノベーションされ、多くの人々から愛される桐生を代表する飲食店のひとつとなっている。若いときから日本の将来に信念を持ち周囲の学生と討論を重ねたという清二。偉大な「雑誌王」輩出の地は、形を変え人々の交流の場として今に引き継がれている。



本町四丁目能楽館通り 松井ニット技研

所在地／桐生市本町四丁目 甲 85
所有者／代表取締役 松井智司・取締役 松井敏夫

「能楽館通り」に沿って落ち着いた佇まいの民家がある。この民家がニューヨーク近代美術館（MOMA）のミュージアムショップでも圧倒的な人気を誇る「マルチカラーマフラー」を生み出す松井ニット技研の工場である。古い編機が生む独自の風合いに織物産地で育んだ豊かな感性が加わり、他にまねの出来ない製品が、街の文化や歴史が滲む路地裏から世界へ発信されている。



朝倉染布

所在地／桐生市浜松町一丁目 13-24
所有者／取締役会長 朝倉泰・代表取締役社長 朝倉剛太郎

平成24年に創業120周年を迎え、1世紀以上にわたり企業活動を継続し、今なお挑戦し続ける老舗染色加工業者。広大な工場敷地内には、近代化産業遺産とも言える木造のノコギリ屋根工場が現役稼働、明治43年の「一府十四県連合共進会」に由来する仕上げ工場も健在である。伝統と革新を具現化する工場群、中央に聳える煙突から立ち上る白煙は市内の随所から望むことができる織都のシンボルである。



野間家住宅 野間静子邸

所在地／桐生市新宿
所有者／土屋由子

「雑誌王」野間清治を輩出した野間家の新宅で昭和12年建築。静子氏は祖母が清治の妹保（やす）。清治の姪にあたる母定子は特に清治から可愛がられたと言ひ、邸宅には清二の思い出が随所に残されている。偉大な「雑誌王」を輩出した野間一族。この新宿に残る端整な木造2階建ての住宅は、美しく整備された庭園を携え、名家の風格を備えた景観を保っている。



<http://www.kiryucci.or.jp>

<http://www.facebook.com/kiryucci>